

北海道師範塾 「教師の道」 塾頭通信

第820号 平成26年10月17日

特定の価値観の押しつけ？（2）

「人を殺すな」という一見異論は無いように思える事であっても、「死刑制度は必要」と考える人から「死刑制度は絶対反対」という人まで価値観には幅があります。だから、

「人を殺すな」「弱い者をいじめるな」「泥棒するな」「困った人を見たら手を差し伸べよう」といった、いわば当然、自明のテーマであっても、自分はどう考え、どう行動すべきかを考えるプロセスは極めて重要です。

道徳教育は、一人ひとりの子ども達に、世の中には色々な考え方の人がいるが、そうした中で、社会の構成員として生きて行くためには如何に行動すべきかを考えさせ、また、社会人として責任ある行動がとれる力を身に付けさせる上で必須のものだ、と私は思っています。

道徳教育に対する批判として、「価値観の押しつけ」という言葉がしばしば使用されますが、道徳教育の根幹は考えさせ、理解させ、行動する力を身に付けさせる事にあり、子ども達に対して、無批判にある一つの行動を取らせようとするものではありません。

もしも、道徳教育そのものが「押しつけ」だというのなら、そもそも教育にはそうした「押しつけ」の要素があるのであり、もしも、「押しつけ」という事を全否定されたら教育等は成り立たないのではないのでしょうか。

大人であれ子どもであれ、楽しい事や興味のある事はするけれども、面倒な事、辛い事は出来るだけ避けたいと思うのが人情です。勉強が好きでたまらないという子もいますが、多分それは例外で、多くの子ども達は、勉強と遊びのどちらを選ぶと問われれば遊びの方を選ぶでしょう。

それでも、子ども達には勉強してもらわなければなりません。それは、学校も保護者も、子ども達が一人前の大人になるために勉強は必要不可欠だと考えているからです。学校の授業について少しでも楽しく、興味が増すように工夫する必要はあるとしても、教育に「強いて学ばせる」側面のある事を否定してはならないと思います。

仮に、教育における「押しつけ」の要素は認めながら道徳教育は「押しつけ」だと批判するのは、結局、道徳を学校で教育する事に反対という事なのだろうと思います。しかし、道徳教育の必要性を強く感じている私としては、道徳教育を「押し

つけ」の一言で忌避して欲しくはありません。

社説では、「普段の学校生活、家族や友人との人間関係、読書などを通して一人一人が内省を深めるものだ」と述べています。社会の中で人として生きて行く上での重要なルール（規範）を、子ども達が自分の力で自然に身に付ける可能性を否定しませんが、本当にそれだけで十分なのでしょうか。

教えてこそ身に付く事は非常に多いと思います。教える事で、理解が早まり、また、理解が深まる事も多いはずです。

社会のルールやマナー、規範意識等を身に付けるという事は、社会の責任ある構成員として生きていく上で必要な物差し、いい換えれば「柱」を持つという事でもあります。その「柱」は、小学生や中学生のその後の成長にとって限りなく大きな力を発揮するものと信じて疑いません。逆に、自分の中に「柱」になるものを何も持たないまま成長して行けば、時の流れや社会の風潮に右顧左眄し、自分を見失ってしまう可能性が大きいのではないかと懸念されます。

北海道の子ども達には、勉強よりゲームをしたりテレビを見たりして過ごしている子が多いという実態にあります。また、ごみを路上等にポイ捨てして恥じないような公德心に欠ける大人も少なくありません。こうした実態を見れば見る程、子ども達の自主性に任せていれば社会のルール（規範）は自ずから身に付くと考えるのは、責任逃れのように私には映ります。

また、「特定の価値観の押しつけ」ということでいえば、子ども達に「君が代は国歌として相応しいとは思わないので卒業式では歌わないように」と指導するのは、「特定の価値観の押しつけ」にはならないのでしょうか。

十分な理解力が備わっていない子ども達に、「国歌は歌わないように」と指導するのは、「特定の価値観」を子ども達に誘導する事ではないかと思えます。その結果、実際に子ども達が国歌を歌わなかった時に、「それは子ども達が自主的に判断した事だ」というのは、責任逃れに過ぎないと私は思います。

学習指導要領に従って国旗や国歌を指導する事は「特定の価値観の押しつけ」であり、学習指導要領に反してでも自分の考え（思想）を子ども達に教え込むのは「特定の価値観の押しつけ」ではないというのは、理解し難い事です。

また社説では「行き過ぎた規範意識は多様な価値観を認めて自ら学ぶ姿勢を引き出す本来の教育目的をゆがめる」と述べていますが、「行き過ぎた規範意識」とはどのような事を指しているのでしょうか。

ピカソの絵を見て「素晴らしい」と感じる子もいれば「良く分からない」と感じる子もいます。何に感動し、何に興味を持って取り組むのか子ども達一人ひとり違いますので、その一人ひとりの子ども達の持っている力を引き出し伸ばして行くのが、教育の本来の使命だと私は思います。その教育の本来の使命が、道德教育によって損なわれるとは、私には思えません。

また、規範を守る事に行き過ぎという事はあるのでしょうか。刑法に反すれば、罰せられてしまうように、社会のルールを無視すれば、社会から弾かれてしまいます。「自分さえ良ければ」という事では通用しない世界がある事を、子ども達にしっかりと教え、身に付けさせる事は重要だと思います。(塾頭：吉田 洋一)